

陳述書

令和2年1月21日

東京地方裁判所民事第2部裁判官 殿

原告 梶谷完行 ●

- 1、 私は、神奈川県の上浦半島西側の海岸に面する横須賀市秋谷という地域で、昭和39年から先祖代々の家業である漁業に従事し、今年で56年になります。息子2人も漁師になりました。

秋谷地域の漁師は、昔から海岸近くの水深1~15mのところの海底の磯に生息するトコブシ、アワビ、サザエなどの貝類の他エビ、タコ、海藻類を、年間を通して漁っております。0.3tほどの小さな船に乗って、木製の円筒状の箱の先に海底をのぞく直径約30cmのガラスの付いた「箱メガネ」を使って、船上から、海底をのぞき、長さ約3メートル~15メートルの水深に応じた長さの竹棒の先端につけた鉄製のモリや鉤で、海底の磯アラメやカジメ、ヒジキなどの海藻の間にいる貝類を採る漁法を主に漁をしております。

- 2、 ところが、10数年程前から、次第に、海底の岩場の磯に生えるアラメ、カジメ、ハバリ、ヒジキなどの海藻の量が年々減ってきました。この現象は特に最近5年ほどの間にひどくなり、昨年頃からは、箱メガネで見ても、海底の磯場に以前は森林の様に密生していたアラメやカジメ、ヒジキなどが、一本も見えないという磯枯れの状態になってしまいました。そのため、漁獲量も激減し、最近では、アワビは、以前は1日5~6kg(約30個)だったのが、あっても1日1個という状態です。サザエも、同様に、ほとんど獲れません。発生しても小さくて、やせています。海藻の漁獲も少なくなりました。このため、最近では、釣り漁に移っていますが、カワハ

ギ、メバル、ムツなどの漁獲量も以前より減少しています。このような状況が改善されないならば、貝や魚の漁には見切りをつけて、釣りのお客さんを乗せる釣り船業だけに頼らなくてはならなくなるのではないかと心配しています。

3、この「磯枯れ」が発生した原因として考えられるのは、海水の温度が、海藻の繁殖に適しない状態となったことです。

アラメ、カジメ、ハバノリ、ヒジキなどの海藻は地上の草木と同様に季節の変化のなかで、春先に根から新芽が出て数年かけて成長するというサイクルで生息しています。そしてアラメやカジメの海藻の成長のサイクルに適した水温が必要なのですが、特に春先に水温が下がらなくなってきたのです。私たちは、毎朝漁に出る前に船の温度計で気温と水温を確認してその日の漁の種類を決めます。そのため、一年中の気温と水温を正確に測定し、それと、海藻類の繁殖のサイクルの関係をずっと見てきました。その結果、特に、1月頃に、新芽が出る時期の水温は例年10℃～11℃なのですが、これが最近ではその時期になっても 13℃～14℃から下に下がらないのです。

また、10年ほど前から、海上の天候も以前と異ってきています。以前は、12月から2月頃の冬場になると、冷たい西風が強く吹き続け、海底の浅場の岩場も枯葉などが流れてきれいになり、水温も下がり、根から新芽が出る準備ができていました。そして春には海底の磯は海藻の森になりました。海底の岩に海藻がびっしりと生え出て森林のようになり、岩肌が見えないほどになります。それがエサとなり、貝類も魚も繁殖します。

ところが、この何年かは、この西風がほとんど吹くこともなく、冬の寒さが感じられません。いつもは気温が下がる1月なのに、気温は12月とほとんど変わりません。この気候の変化と海水温の変化は関係していると思います。私たち漁師は昔から天気を相手に仕事をしていますが、このような気候の変化の原因が何かということ

については余り分りませんでした。

しかし、このような気候と海水温の状態が続くならば、残念ながら、先祖代々守ってきた私たちの漁業は続けられなくなることは確かです。そのため、私は、どうしたら、海が元のようになるだろうと毎日考えておりました。

4、そのような中で、石炭火力発電所とCO₂の問題について、地元の横須賀で運動している人たちがいることを知りました。その方々にお話を聞いたり、自分で調べたりする中で、世界では、10年以上前から、CO₂による地球の温暖化という問題が科学的にも明らかにされて、パリ協定などにより、全世界規模の政治課題となっていること、私たち漁業者が実際に大きな影響を受けている気候と海水温の変化の原因は、100年以上前からの世界の石炭燃料等の利用によるCO₂の大量の排出にあることを知りました。

また、久里浜に建設予定である横須賀石炭火力発電所について訴訟(令和元年(行ウ)第275号、東京地方裁判所民事第2部Cd 係係属)を提起していることを、令和元年10月ごろに、その訴訟の原告である鈴木陸郎さんからお聞きしました。

今、私は、この状態がさらに悪くなることを一刻も早く止めて、元の状態に戻す努力をしなければならないと思います。そのために、私ができることがあればと考えて、この裁判の原告に加わる決意をしました。

今後は、このことを、仲間の漁師や一般の市民の方にもっと知ってもらいたいと願っております。

以上